

## 【資料5】ターム物 RFR 金利（スワップ）の公表等に向けた対応案

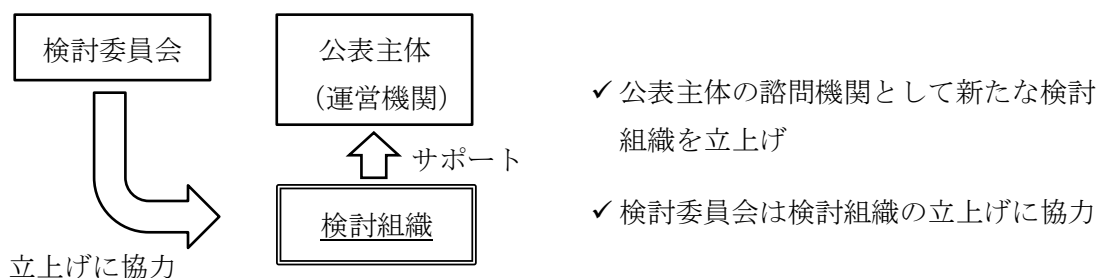
### 1. 背景

- 本検討委員会では、貸出および債券ともに、代替金利指標として、「選択肢（3）ターム物 RFR 金利（スワップ）」の利用が望ましいとする意見が多数であった。今後、市中協議<sup>1</sup>において、更に対象先を広げて確認することとなるが、海外の進捗状況も睨みつつ、「選択肢（3）」の公表に向けた市場全体の取り組みを開始するフェーズを迎えることとなる。
- この点、市中協議文書の「4.（1）（ii）選択肢（3）の算出・公表に向けて」における記述のとおり、将来の運営機関を展望する「選択肢（3）」の公表主体について広く募集する必要がある。
- 本募集を行うにあたり、当該公表主体が、「選択肢（3）」の算出・公表に向けた検討や体制準備等を円滑に開始できるよう、当該公表主体に対して、これまでの検討委員会での整理をもとに、要件やデータ検証等にかかる実務的なサポートを行うための枠組みが必要と考えられる。

### 2. 実務的な検討の枠組み

- 市中協議文書にあるとおり、市中協議結果の取りまとめ公表後速やかに「選択肢（3）」（参考値）の公表を行い、かつ、公表主体に対して上記のとおり実務的なサポートを行うためには、迅速な検討・意思決定を重視し、少人数の検討組織を立ち上げる必要があると考えられる。
- 検討組織の建付け（イメージ）として、例えば、以下のようなものが考えられる。

#### ▽検討組織の建付け（イメージ）



<sup>1</sup> 市中協議文書は 2019 年 6 月中を目途に公表予定。

- 検討組織は「選択肢（３）」の確定値公表も視野に実務的なサポートを行うため、これらにかかる知見を有する先や日本円 OIS の主要ブローカー、これまで「選択肢（３）」にかかる具体的な要件の検討を行ってきたターム物金利構築に関するサブグループの主要メンバー等で構成することが考えられる。

### ３．今後の取り組み

- 「選択肢（３）」の公表主体に複数先が応募してきた場合の選定の進め方については、諸外国の状況も参考にしながら、「選択肢（３）」の要件やデータ提供主体となるブローカーの意見等もふまえ、予め検討委員会メンバーにご説明することとしたい。
- また、検討組織の具体的なメンバー等についても併せて検討委員会にお示しすることとしたい。
- なお、今後、検討組織において具体的な取り組みが進捗した場合において、その状況等について必要に応じ検討委員会に報告することとし、また、その内容に応じて必要な場合には検討委員会もメンバー・オブザーバーの意見集約等のサポートを行うことが想定される。

以　上